

第 3 回かわにし市民会議 議事メモ

班	2 班「子育て・教育の充実」
コーディネーター	石井 聡
ナビゲーター	林 理恵
説明担当者（自治体）	
日時	2019 年 7 月 27 日（土） 13 時 00 分から 16 時 00 分
場所	川西役所 6 階 議員協議会室
その他	参加者数 15 名

趣旨・概要

- ①「妊娠、出産を機に大きく変わることにについて」
- ②「産前産後」について
- ③「子育て支援事業」について
- ④「子育て支援における情報発信」について
- ⑤「子育てに対する男性の考え」について
- ⑥「地域とのかかわり」について

総括

コーディネーター総括

お話にもあったようにここで議論となったことを周りで話をさせていただいたことが大切。周りの方の意見を預かってきていただくこともいいことだと思う。市民会議の最後にはみなさんに書いていただいたシート表を見ながら、まとめに繋げたい。

次回は引き続き、今回と同様、みなさんから自由な意見をいただき、議論を進めていきたいと思う。

協議の流れ

1 第 2 回市民会議振り返り

第 2 回は行政の担当課から教育と子育て支援の担当者を招き、いま市役所がどういう仕事をしているのかという現状について共有した。

2 産前産後ケア

（ナビゲーター 認定 NPO 法人マドレボニータ理事 林 理恵氏より説明）

- ・出産後の女性のヘルスケアプログラムを研究、開発、普及している団体で理事をしている。
- ・本日は「妊娠、出産を機に大きく変わることにについて」話をしようと思う。
- ・妊娠・出産を機に大きく変わることは、「家族の心身の健康」「関係性」である。
→女性は出産に伴う身体的ケア、ホルモン変化に伴う精神的ケアが必要である。
→男性に対しても、精神的ケアが必要である。

参）：市民参加者、コ）：コーディネーター、ナ）：ナビゲーター、市）：説明担当者

(様式①)

- ・産後の三大危機は「両親の危機」「赤ちゃんの危機」「夫婦の危機」といえる。
「両親の危機」 …男女ともに産後うつ
「赤ちゃんの危機」…乳児虐待
「夫婦の危機」 …夫婦不和
- ・上記の問題に取り組むためには、出産前に備えることが大切である。
→家庭で妊娠中からの準備、協力体制を築くこと
→地域で時代にあった手助けをすること
→行政で妊娠中から三大危機の予防に取り組むこと
- ・環境が大きく変化するタイミングだからこそ、家族のきずなを深めるチャンスであり、地域とつながるチャンスであり、行政とつながるチャンスであり、健やかに子育てをスタートするチャンスと捉えていただきたい。

3 産前産後について

①産前産後の経験について

- 参) 自身が産前産後の時、病院を受診するほどでもない、保健師さんに相談するほどでもない、でもケアして欲しいという気持ちがあった。今回紹介いただいた産後ケア教室が身近にあったらよかったいいのに、川西市にはないのかなと思ったのが率直なところ。私も実家が遠いので、最初の 1 か月くらいは実家にお世話になっていたが、その後は家で子育てをしていた。赤ちゃんは 3 か月くらい外に出ない方がいいという知識があったので、2、3 か月の時は、家から出られず、誰とも関われないという状況があった。その時に少しでもいいから他のお母さんと話す機会があれば、お互いに共感でき、それだけでもすごく励みになったのかなという想いがある。そういう点でのケアがもっと充実したらいいと感じた。
- 参) 私も産後は孤独を感じた。印象に残っていることは、阪神淡路大震災を被災した際、私は揺れでは全く目が覚めなかったこと。子ども泣き声では起きるのに、地震では全く起きない。それくらい疲れ果てていた。本当に子育ては大変だと思う。
- 参) 育児に疲れ切っている女性を見かけたことがある。そういう姿を見て、同じ川西市で子育てをしている母として、悲しくなった。それはもう 1 人の自分だと思った。子どもと一緒に参加できるイベントがある、保健センターに相談をするなど、何か手立てがあればいいのと思ったことを覚えている。そういったお母さんが 1 人でもいなくなり、川西市で安心して子育てができるような手立てが必要。

②産前の支援について

- 参) 女性の方々の意見を聞きながら、自分が子育てしている時、なにをしていたかを思い出していた。ミルクをあげる、お風呂にいれるといった記憶がある。女性陣からすると、他にもあるでしょと言われてしまうかもしれないが、逆に女性からこんなことをして欲しいという意見をもらえたら、もう少し情報共有ができたらいいいのかなと思った。

参)：市民参加者、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

(様式①)

- ナ) まさに、そういう作業が出産前にできれば、とてもいいと思う。出産後は、授乳することを考えると、女性は睡眠をとる時間が少なくなるので、睡眠を取ることを優先させると、そのタイミングで情報共有をすることは難しい。ただ、2人だけだと、何が重要か分からないというのが正直なところだと思うので、それが知見としてきちんと2人が知ったうえで、どこを大切に、どこを分担するのか話し合うプロセスが必要だと思った。
- 参) 子どもがいま1歳で妻も仕事に復帰し、毎日慌ただしい日を過ごしている。土日はゆっくりしたいと思うが、なかなかどこに行ったらいいか分からない。この前、僕と娘だけで過ごした。アステ市民プラザのプレイルームに行ったが、一見さんお断りじゃないが、ドアが閉まっていて、男の人と子どもだけの2人で入る勇気がなく、回れ右をした。入れなかった。妊娠中とか、事前に1度入ったことがあれば、行きやすくなるかなと思った。出産後がスタートという話が出ていたが、それに対する準備として、こんな施設があるという情報発信がとても大切だと感じた。
- ナ) プレイルームは防犯上の問題でドアを閉めていると思う。またお子さんが出ていってしまうケースも想定される。だとしたら来た人に対して声かけをする少しの工夫が必要。今お話しされたような曜日で決めることもいいと思う。この問題については解決できることも多いと思う。
- 参) 男性は、仕事は大変だけれども、子どもばかり見ているわけではないので、そういう意味では私は気分転換もできていたと思う。産後の女性はホルモンの関係などもある/ということで、どう対応していくか難しい。男性の方にも女性の出産前後の状況について情報が必要だと思う。私は毎日妻にどうしてあげたらいいのか分からなかった。最初の1、2年くらいは子どもが3歳になったら離婚しようというようなことも考えるくらい家の中が暗かった。産後うつについては、女性に対する直接のケアも必要とのことで、旦那に対しての心構えというものを伝えることができればいいのではないかと考えた。
- ナ) 妊婦のこと、赤ちゃんのことについて、男性には情報が必要だと話がありましたが、女性も一緒だと思う。こういう問題が出てくるとしたら、準備もするし、心構えができると思う。
- 参) 出産前は1人で家にいることが多い。その時に産後こういうことがあるという資料があれば、勉強になると思う。
- コ) 私も病院の両親学級と、市役所の両親学級に行った記憶がある。市役所でやるものは沐浴の仕方について人形を使って実践するなど、わりと実践で必要なものが多い。戦力になるために、テクニカルの部分も大切。ただ、説明いただいた精神的な部分、母親の体の状態などの知識が無いなかで、赤ちゃんがある日突然やってきたという状況だったと思うので、知識としていれておいた方がよかったなと思った。
- 参) 妊娠中のお母さんたちが、赤ちゃんに触れる機会があるといいと思う。市民病院であれば、生まれたばかりの赤ちゃんも多いと思うので、経産婦のお母さんに許してもらえるのであれば抱かせてもらうことができるだけでも、とても勉強になると思う。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

- ナ) 赤ちゃんを触った事がない人が父母になるケースが増えている。協力してもらえる人がいるかどうかは別の話として、赤ちゃんに関わる機会があればいいと思う。
- 参) 妊娠したら、母子手帳をもらう。出産までのことは詳しく書いてあるが、産後のことはうつになることがありますと書いてあるだけ。そこをもう少し川西市独自で詳細なものを作り、紙ではなくアプリ等で配信すると男性も通勤途中に読めるしいいと思う。具体的には子育てした人達の経験談、医者、保健師からの一言アドバイスなどが知れたらいいと思う。

③産後の支援について

- 参) プレイルームに行くという行動は自発的な行動。自分からいこうと思わないと絶対に行かない。自分も何がきっかけでプレイルーム行こうと思ったかは覚えていないが、あの時に行かなかったら、そのまま産後うつになっていたと思う。自発的に行動をしにくい産後のお母さんを強制的に動かす何かが必要。子どもの検診など保健センターから通知が来ると、絶対に行くけれど、それ以外の催しが広報に載っていても申し込みが必要だったり、先着順だったりして、申し込みをしてからいくとなると非常にハードルが高くなり、めんどくさい、家にいようと自分の殻に閉じこもり、しんどくなるという生活を何か月もした記憶がある。ある程度強制的に参加させたり、もっと簡単にレスポンスをすることができればいいと思う。
- 参) 産後のお母さんと赤ちゃんが上手に遊べる、ママも笑える日をつくることの提案として、私の知り合いでマリエッティの遊び屋さんというものをやっている人がいる。出産院に行ってお母さんと赤ちゃんを対象に、一緒に遊びをやろう、お話をしよう、部屋を真っ暗にしてブラックパネルシアターをやろうという活動がある。ブラックパネルシアターは暗闇で光るパネルシアターで、劇みたいなもの。川西市に住んでいるお母さんが今ちょっとずつ始めている活動。折角川西市で始めたものであれば、もっと川西市で活動の場を広げてもらえたらと思う。
- コ) それは遊び方を教えてくれるということか。
- 参) 楽しい場を提供してくれるというような感じ。ママも楽しめるような遊びを提供してくれる。保育者さん向けにこういう遊びもありますよと教えてくれることもされている。

4 子育て支援事業について

①既に実施している支援事業について

- 参) 育児支援を行っている保育園などで、保育士さんに子どもをみてもらいながら、お母さんヨガを楽しめる、子どもと一緒に料理教室を楽しめる事業をしている保育園がある。それに1時間参加するだけでもお母さんは十分リラックスできると思うし、自分のために時間を使えたという喜びを感じることができると思う。そういう事業が幼稚園、保育所にあることをアピールして欲しいと思う。
- 参) 男女共同参画センターでも保育付きゆったりタイムという2時間子どもをみてもらう

参)：市民参加者、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

(様式①)

間、同じ施設の中でお母さんが読書を楽しんだり、コーヒーを飲んだりする時間を過ごせるというサービスがある。お母さん達のニーズはいろいろとあると思うが、ニーズと市のサービスが情報として結びついたときにお母さんの孤立化はなくなると思う。

参) お母さんがプレイルームに行っても実際はグループ同士で仲が良いお母さんたちがいたりして、間に入れず結局孤立しているお母さんも実際にはいる。ただ支援員の方がいらっしゃって、話しかけてくれたりするので、和むと言う印象を持っている。

②子育て支援施設について

- 参) ママ友ができる機会は出産前に母親教室などがあり、意外に多いと思う。ただ、そこから出産を経たあと、お母さん同士が気軽に集える場所がない。多くのお母さんが利用するのは和食さと。座敷がある和食レストランなので、子どもたちを遊ばせながら食事ができる。そういう場所が公共施設であればいいと思う。
- 参) プレイルームは屋内での公園。子どもを遊ばせながら交流はできるけれど、そこでプライベートの話をできるというわけではない。なので、公民館やアステ市民プラザの会議室などをママ会目的で、普段の利用よりも少し安い値段で提供してもらえたらいいと思う。
- 参) プレイルームの話ですが、入り口にパパも大歓迎と貼っておけばいいと思う。プレイルームのバーで交流の場を作ってくれている。ただそれは指定の期日に何歳児のお母さんたちが集まってねという感じの場。ではなく、毎日来た人と何時になったら交流の時間がありますよというような、いろいろな年齢のお母さんとその場で集まって話せるその話題を支援員さんが振ってくれるというのがあればいいんじゃないかと思った。
- 参) 公民館は図書室もあるのでそこを利用してもいいと思う。公民館にサポートセンターをくっつけてしまっても良いと思う。公民館でよく講座などはやっているが、サイクルメニューのようになっていて同じ講師の方が実施しているので、参加する人も決まってしまう。アプリでボタンを押したらすぐに参加できるという話があったが体験、見学ができるような体制を整えるといいと思う。また、お母さん方が子どもを連れて集まれるようなスペースをつくり、いつでも利用できるという、何をしてもいいというものがつくれたらいいと思う。
- 参) 小学生の兄弟がいたらいけないというところが多く、小学生の子も一緒に行けたらいいのと思う。
- コ) なぜ小学生はいけないのか。
- 参) プレイルームは未就学児が対象だから。危ないという安全面からの配慮なんですが、親と一緒に連れていけないという悩みがある。
- コ) 座敷のある公共施設の話だが、実は少し前に同じ相談を受けた。共同保育をやりたいというサークルから、座敷のある部屋を貸して欲しいという話で、市内の公民館などをあたったところ、探せば結構あるという話になった。ただ、最初にやろうとする人はとてもエネルギーが必要。なんとなく集まれる場所を最初に作ろうとすると、すぐ

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

くエネルギーがいる。困った経験のあるお母さんがそういう場所を開いてくれると、うまく世代交代をして回っていくが、最初の一步が大変だと思う。

- ナ) たしかに、公共施設の予約のハードルは高いと思った経験がある。なにか、そういう子育て世代に対する優先枠があるだけでも、いいと思う。もちろん施設のキャパを考慮する必要はあるが。
- 参) 座敷の話だが、座敷だと確かに助かるが子どもの場合、畳だとこぼした時に困るので、できればプレイマットの貸し出しがあればいいと思う。プレイマットなら下が土足の会議室でも敷いたらなんとかなる。安価で貸し出しをしてくれるとなれば、いいなと思う。
- 参) 子育てをしているときに母親の負担を減らそうと思い、できるだけ子育てから目を離せるようにしようと心がけていた。ただ、結局仕事をしている関係上手助けできるのは夜間だけだったりするので、見てくれるところがどこにもなく、ひたすら車に乗せてドライブをしていたことがある。お母さんですら、行くところが無いと言っているのに、男の人たちは絶対に行くところを思いつかないと思う。その辺もみなさんの知識を情報共有できるものがあれば助かると思う。
- コ) 今まで役所と関わりのない生活を送っていた人が、子どもができて、子どもを遊ばせるところがないかというスタートをきるので、いきなり施設に行くことも難しく、どこに行ったらいいか分からないとなる。とにかく子どもを遊ばせる場所はないかと私のところに來られたので、施設の整理をして紹介した。本当は子育てのセクションの担当課がやってくれるのがより良いのかなと思う。
- ナ) 確かに、市民参画のセクションに行くことは、珍しいと思う。ただ、横の連携があることはいいなと思う。
- コ) 和食レストランから、公共施設に來てくれたというのは、役所にとってはチャンスなので、きちんと対応したい。

③子育て支援施設に求められるソフト面のケアについて

- コ) 場があっても、繋がれるのかというと非常に難しい。昔公園デビューと言う言葉があったが、いまは児童館デビューというような感じ。そこにお母さんたちは少なからず恐怖を感じている。そこにデビューできないと言う声も聞く。施設として、場所としてあるわけだけではなく、話せる場づくりが重要。グループ同士で固まるのではなく、いろいろな人が話せる場所であることが重要。かといって事前にしっかりと予約が必要な組まれたプログラムが必要というわけでもない。自治体の支援員さん達には、そういう場づくりのスキルを学んでいただくというのが1つ大切ではないかと思っている。私達が実施している教室もそういう場づくりをきちんとやっている。私達は4回コースでやっているが、体を動かしてコミュニケーションのワークをするだけでなく、その後に、みんなでランチに行ってくださいとお勧めしている。またコミュニケーションのワークの場では「人生」と「仕事」と「パートナーシップ」のどれかを選んで話をしてくださいというように、すごく深い話をしてもらおう。みなさん、全然知らない

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

い人達ですが、そのテーマで 4 回やるととても仲良くなれる。そのランチの時間を含めて、私はこういう風に思っていると聞きあう中で、仲が深まり、卒業した後も付き合えるコミュニティができていく。そんなものが全国の教室で生まれている。ですので、それはとても難しいことではないと思う。ただ場をちゃんとつくるということをしていかなないと、ただ場所だけ提供します、じゃあフリーで。と言ってもそういうつながりは生まれないんじゃないかと私は考える。

- コ) 最初、実家が遠い言うことをメモとして書きましたが、やはり全員が、里帰りできるわけではないということもあるし、里帰りできたとしてもいずれ自宅のほうに戻るようになる。完璧に楽な状態になって戻ってくるわけではないので、実家が遠いというのは子育て支援において 1 つのキーワードとなる。
- コ) 市の総合戦略として、子育て世代の人にこのまちになるべく多く帰ってきてもらおうというときに、実家があるから帰ってくる人は限られている。実家だけに頼らなくても子育てができる環境はどう作れるか、考えないといけない。高齢出産の場合は、親が高齢ということもある。その場合は子育ての支援を頼れない。みんな社会的な移動が激しくなって、親の近くに住んでいないということもあるし、出産の年齢が上がれば実家が必ずしも頼りになるとはわからない。むしろ逆に低い年齢で出産された方は両親が働いているかもしれない。それはそれで実家問題というのは行政として考えないといけないと思いました。

5 子育て支援における情報発信について

①行政からの情報発信サービスについて

- コ) 私は以前の部署で広報の担当をしていた。どれくらいの人が広報を読んでいるかアンケートをとったことがあるが、忙しいからという理由で、育児している世代が 1 番読んでいない、逆に 1 番読んで下さっているのは 60 代、70 代の世代。子育て支援のイベントを出しても、全然申込みがないということがあった。よくよく聞くと、広報の記事を読んでいない。忙しくてそれどころじゃないし、字ばかりという話だった。その時は子育てのページだけ広報誌の 1 番後ろの 2 ページに寄せて、写真を多く入れるなど工夫すると、少しだけ募集率が上がったということがあった。
- コ) うちの市では広報誌は読まないという意見から検診の日程について、メールマガジンの配信を始めた。つまり、とりあえずメールで出そうということ。お金はほとんどかからない。母子手帳を渡す時にメールサービスに登録の案内をすると、かなり高い確率で登録をしていただくことができた。そういうやり方もあるのではないかなと思う。ただ、今の時代にメルマガかといわれると、(時代に遅れており) どうかという気もする。
- 参) 公民館では親子で楽しめる講座をされている。あとは各幼稚園、保育所がやっている育児支援プログラムがある。ただ、情報はあっても各幼稚園、保育所がやっているホームページなどを調べないと情報を得られないので、一覧にして関心のあるお母さん達に届くように配るサービスがあればいいと思う。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

参) 出産後、退院をするタイミングでメールマガジンに登録をさせる、させたら何か月向けのイベントを配信する、配信されたメールに対してタップするだけで参加表明ができる、それ位の気軽さが必要だと思う。現代のお母さん達はみんなスマホを触って、いろいろな情報を収集されている。市からの配信はそういうものではなく、広報の 1 ページに新聞みたいなものを読むのは産後の人間には非常に読みづらくて、流し読みして終わりになってしまうので、紙ベースという古臭いものをそろそろ捨てて、メールやアプリにシフトできたら参加率も上がると思う。

②アプリの活用について

参) 川西市は子育てアプリで「まちかご」というものがあるが、紹介されている内容に関して不満がある。物足りないと思う。もう少し突っ込んだ情報を集めたいと思ったときに市役所に電話し担当の方に聞くというのは、子どもも横にいる状態ではしんどいと思った記憶がある。欲しいと思っている情報が手元にあるのは子育てしている中でとてもありがたいと思う。

参) 今年、幼稚園の役にあたった。他の方々とラインでやり取りをしている。スマホを持っていないお母さんは 1 人もいなかった。スマホを持っている率も上がってきていると実感している。アプリに育児の情報が集約されているのは、理想的だと思う。

コ) 子育てのアプリはゼロから作ると 300 万位かかる。安いものではない。

ナ) 他の自治体の例でいうと、LINE が自治体向けにそういった配信サービスをやらせられ、それを導入して、子育て向けの配信だけを受けたいと選んで受信できるという自治体もある。

ナ) LINE が提供しているアプリはそこまで高いものではない。アプリの値段はピンからキリまで。

参) 私はもともとシステムエンジニアなので、アプリは高いということを承知のうえで、アプリを提案したい。母子手帳はアナログすぎる。デジタルにしましょう。何ヶ月検診を受ける時に、毎回出生体重等を記載しないといけないので、本当に手間。データであれば、最初の 1 回入力すれば、何回も書く必要はありません。印刷するときに出力しておわりとできるのに、と毎回思う。そういうものをデジタルにするとともに、お父さんにして欲しいことリストについても夫婦で同じアプリを使うことによって、お母さんが今何をしたいかというスタンプを押したら、それがお父さんに届くというようなものがあればいいと思う。こういう催しがあるというものも、検診の登録状況に合わせて届くというのをすれば、1 つのアプリで全部届く考える。

コ) 母子手帳のアプリは神奈川県が推進している。データの保存としては十分なのか。

参) データはサーバーに送信されるので、市役所、保健センターが火事にならない限り大丈夫だと思う。クラウド化すれば、災害にも対応できる。

サ) 行政がどれだけデジタルに対応できるかという、大きな話になってくる。海外にはデジタルを使うことと、情報をデータとしてオープンに提供する流れがある。日本国内

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

でも、いくつかの行政がオープンデータはしている。

- コ) データでの発信については、個人の問題とデータ全体をどうやって役所が持つかという点と両方あると思う。
- 参) バリアフリートイレやオムツが交換できる場所についても自分の位置情報を確認できたら、地図に表示されるというものが標準装備として必要だと思う。
- コ) 誕生日をいれて、自動的に情報を得ることができるというのは、横浜市だったか、他の市でもやっていたと思うので先行事例はあると思う。
- ナ) 横浜市金沢区ですね。
- コ) そこは、オープンデータの話とつながっていると思う。ゼロから組み立てる話ではないので、そこはできる可能性があると思う。
- 参) 母子手帳を見たことがありません。世間一般の男性が同じかどうかは分かりませんが、少なくとも印象としては、母親がそれは自分のものという意識を持っているんじゃないかと思うくらい目にすることがない。デジタル化という話だが、1 つしかない母子手帳だからそういうことが起こるので、配った時点で 2 人分を端末に入れてくださいということといえば、男性の子育てに対する参加率も上がると思う。やはり情報を得られないというのは、参加する機会を得られないということと一緒。積極的に取りに行かなくても、情報をもらえた方がいいと思う。
- 参) 最初から、両親に対して情報発信をしていただけたらありがたい。
- コ) その時点で、母子手帳のネーミングはどうかってこと。親子手帳ですね。

③情報の取捨選択について

- 参) お母さんをサポートする制度はファミリーサポートセンターなど、いろいろなところでされていることは分かっていたけれど、ニュースで死亡事故などを見ると、他人に預ける勇気が持てず、サービスを利用することができなかった。今は情報を集めればよかったかなと思うので、ファミリーサポートセンターを利用した人のレポートなどを作るといいと思う。また、後々知ったが、ファミリーサポート通信というものを発刊されているらしい。情報が欲しい人に情報が届くメッセージのような機能があったらいいと思う。
- ナ) いま、情報は溢れてしまっている。逆に悪い情報ばかりを手に入れてしまって自身をせめてしまうというケースがすごく多い。みんな不安になるとインターネットで調べる。そうすると悪い情報ばかりが目につく。そうすると、それをやっている自分が悪いというような気持ちになり、どんどん自分を責めてしまうことがある。自分が自分に対して、よくやったという気持ちを持つことが大事である。
- コ) サービスだけあっても意味がないという話と同じだが、先程の情報の話もそうで、情報はあっても使いにくく、ただ流されるだけだったりあるいは漏れてしまったりするのは意味がないというのがカギなのかなと思う。

6 子育てに対する男性の考えについて

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

①男性からみた子育て

- ナ) いままでは女性の意見だけだったが、男性の意見も聞きたい。育児がしんどいといという話をすると、男性は責められているように感じますとおっしゃられることが多い。そうではなく、2 人の子どもなので一緒に喜びを分かち合いたいというのが、女性の心だと思っているので、男性が育児に喜びを感じたということを情報発信していただくということも大切だと感じています。
- 参) 私の場合は金、土に子どもをみていた。本当は平日働いているので、土曜日くらいはゆっくりしたいという気持ちがあったが、そういうことは言えないので、がんばっていた記憶がある。平日も妻の機嫌がすごく悪く、家に帰りたくないと感じたこともある。高齢で子どもを授かったので、喜びはすごくあったはずなのに、ナビゲーターの方がおっしゃったようにとにかく家庭が暗いという状況があった。
- ナ) 育児で忙しくなると、夫婦の会話が極端に減ってしまう。子どもに手がかかれば、かかるほど、対話の時間は減る。また、会話をすることに慣れていないということもある。自然な感じで、夫婦が話し合えるにはどうしたらいいかということを私達は産後の女性に会うたびに考えている。みなさんにも、2 人の対話が生まれるきっかけというものを持つためにどうしたらいいのかという視点を持っていただければいいのではと思う。
- 参) 子育ての時に確かに何をしたらいいか分からなかった。前もって何をして欲しいかのリストがあれば前もって予習できるのでいいと思う。またそれをきっかけとして夫婦の会話ができると思う。
- コ) 市役所は、出産がゴールみたいなところがあると思う。出生届を持ってきて終わりというような。本当は産まれてからがスタート。
- 参) 主人は正社員、私はパートだったので、引け目もあり、なかなか言いたいことを言えないこともあった。その時は手紙を書いた。思いを伝える方法の 1 つとして、他のお母さん等にも情報共有できたらいいと思う。
- 参) プレイルームは基本的にお母さんと子どもの利用が多い。たまにお父さんと来ている子もいるけれど、なかなか他のお母さんと話をするわけにもいかず、携帯を見つつ子どもも見ているという印象がある。

7 地域とのかかわりについて

①既に実施している地域の事業について

- コ) 仕事をしている夫と、家にいる妻であっても、2 人だけでは子育ては回らないのが正直なところ。そこにどういう手を差し伸べるか、外部からどうアプローチしていくのかということ、本当にスタートのところで助け合えるのかというのは大きなポイントだと思う。今までの話は行政、もしくは個人でやることが多いと思うが、地域でやっていることや、こんなことできるというアイディアなどはないだろうか。
- 参) 川西能勢口の近くで毎月第 2 木曜日 12 時から 4 時の間に年配の方々が桜カフェというものを実施してくれている。子どもはただで、大人は 100 円払うと、お茶を飲んでお

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

菓子が食べられる。そこに子どもを連れて行くと、おじいちゃんやおばあちゃんが遊んでくださって私はゆっくりお茶を飲ませてもらえる、そういう場がある。シルバーの方たちと関われ、お話できて嬉しい。もっと地域の人達と話せる場があればいいと思う。

参) 私は行ってないですが、川西市でおばあちゃんたちが親子の料理教室をやって下さっているよう。子どもと一緒に行って、そこでご飯が食べられるということだと思う。例えば先程、公民館などで貸し部屋があればいいという話があったが、小さい子を連れて行くととなると昼食をどうしようというのがまずある。出て帰ってきてから昼食を作らないといけないとなると、出るのをやめようと思ってしまう。なぜ和食さが人気かという、遊ばせられるし、ご飯作ってくれるし、片付けもしてくれるということから、行こうかなと思うところがある。調理場がある所で、事前予約をすると食事を準備してくれて、遊ぶところが近くにあるというものがあれば、地域の人とも関われるし、いいんじゃないかなと思う。

参) 昔のことだが、滝山にあるお寺に子どもたちを集めて授業をしてくださっていたことがあった。ただ今は、事故があっけいまは無くなってしまった。私が住んでいるところは明峰地区で、結構山手にあるので行ける場所は限られている。川西能勢口の駅前で事業を実施されていてもなかなか参加できない。お寺はコミュニティーで実施してくださっていたので、それはとてもありがたかった。

②子育て世帯が地域へ求めるサポート

コ) 私のまちの話ばかりで申し訳ないが、参考になればという話をしたい。子ども食堂を始めたところ、子どもが1人で来るというのではなく、未就学児を連れたお母さんが1番の顧客層になった。1回実施すると、100人以上が来る大きなレストランになった。その食堂の基本戦力は70代の女性。ただ、総指揮は30代の女性がされている。メニューは30代の女性達が決め、実際作業は分担してやる。一緒にやると喧嘩になるので、70代チームの作業と30代チームの作業はまぜない。ここまでの話だと、参画協働課との仕事とはあんまり関係ないが、その後コミュニティセンターの運営に30代の人たちが加わるようになったことが大きいところだと思う。すぐく会館が近代化しまして、今までお金をちゃんと取らないというおらかな部分もありましたが、30代の人たちが入って、パソコンを使って、お金はきっちりしましょう、という話になったということ。他にも、抽選の申し込みの仕方も効率的になるなど、結果的に70代の人でも喜んでくれという地域にデビューするきっかけになり、とてもいい方向にいった例がある。別に役所として何かお願いをしたわけでは無い。役所はなしでも次第にそういうことができた。また、そこから、自発的に登校時の旗振りをやろうという話が出て、実際に実施されているというコミュニティーを活性化するというのは、子育て支援のところから一気に活性化することもある。子育て支援に対して、地域という要素は欠かせないものだと思っている。また、みなさんのお話のなかで、一緒に食べたりするというのも、大切なのかなと思った。ただ公共施設は飲食禁止というところ

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

もあったりするので、そのへんは乗り越えないといけないものもあると思う。

コ) 私が紹介した子ども食堂もカレーでもいいから子どもと一緒に食べられる、その日の夜に何もしなくていいということから人気が出て、その次は仲間ばかり固まって座っていたのを、席トランプで決めるようにして地域の交流を活性化したという事例。

参) なぜ実家が近いといいのか、実家が遠いとだめなのかという話ですが、子どもがいる中でご飯を作るのはとてもめんどくさい、子どもが泣いているときは準備もできない、子どもが寝ている時は私も一緒に寝たいというところがあるからだと思う。給食があればいいなずっと思っていた。生まれたての赤ちゃんでも連れてもいいけて、座敷で寝かせておける、第三者がみていてくれるというようなところで夫婦と一緒に給食が食べられ、値段も安価で、地域での交流できるというのはいいと思う。

③高齢者世代の視点から見た子育て支援

ナ) シルバー世代の方々がどれだけ地域の子育てに興味をお持ちなのかということは、子育て世代として聞いてみたいことなのかなと思う。その世代の方々はご意見、いかがでしょうか。

参) 私は孫世代が子育てをしている年齢。私は箸一本運ばないような人間だったので、みなさんの議論を聞き、おおいに反省した。孫の子どもに対しては孫以上にかわいがっていきたい、また立派な家庭を築いてほしいと思う。

参) もう子育ても終わって、孫も大学生という状況。娘が子育て中のことを思い出しながら、議論を聞いていた。娘は私のところに里帰りをして出産した。やっぱり寝れないということもあり、最初は母乳で育てていましたが、だんだん娘がヒステリックになり、母乳も出なくなり、そしてミルクに変えました。その時わたしは、その孫を預かりました。娘に自分の家に帰って、ぐっすり寝てきなさいと言って、一週間ほどまだ退院して少ししかたっていない子を育てた。いろいろな情報を聞いて、私が子育ての時にやったことをやるのではなく、聞いた情報をもとにいろいろと実践してみた。何時間おきにミルクを飲ませてと言われていたので、タイマーをセットして時間を測ったりもした。その時、私まだまだ育てられると思った。今その子は大学生。私に少しの間でも育ててもらったというだけで、今もとても私のことを大切にしてくれる。いま、私の地域のみんながすごく不満に思っているのは、この地域に住んで子育てをする意味がないと聞いたこと。みんなからの言葉をメモ書きして持ってきているが、今日の話し合いではちょっと議題が違うと思い発言しなかった。子育てについての情報は割とあると思う。自分に合う情報を選んで、それをやっていったら良いのではないかと思う。また、自分を褒めるということを心に留めておけば、何かあったときに自分自身に助けてもらえると思う。

ナ) 今、とてもいいお話をされていました。娘さんにやってあげたように誰かの手を借りて、赤ちゃんとは向き合わないで休むことができるということが母親にとってはとても大事。娘さんはお母さんがおられたおかげで乗り切れたと思うけれど、親族だけに頼らない支援というものがいいと思います。

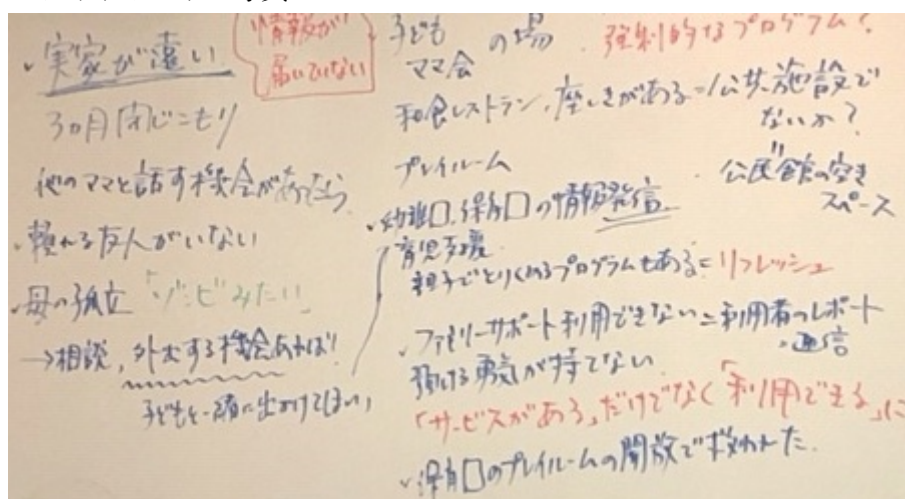
参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式①)

④地域で育てる子育て支援

参) いろいろと意見を聞き、まさに地域に気軽に行ける場所があれば素敵なことがどんどん起こっていくと思った。先程お話が出た桜カフェの意見についても、それがまさに情報発信になる。行政のほうは、アプリとかこれからいろんなことを情報発信するツールがあるのだろうけど、もっと身近なところにも情報発信ができるものがあると思う。今回この場に参加するにあたって地元の方々からいろんなお話を聞いたり、前回の会で発言があったようなパパ友に聞いてもらったりという、そういうものが全て繋がりになる。これをどういう形でみんなと育てていけるかによって未来は全然違うと感じていて、この場をすごく有意義に感じている。こういうことがきっかけになって地域、もしくはもっと身近なところで気軽な人たちで何かしていければ何かが起こるのではと思った。

ホワイトボードの写真



参)：市民参加者、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者